

ミニディスクロージャー誌

平成 25 年 3 月期・営業のご報告

MINI DISCLOSURE 2013
HOKURIKU HOKKAIDO Tokyo・Nagoya・Osaka



株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ[®]
Hokuhoku Financial Group, Inc.



取締役会長 堰八 義博
(北海道銀行 頭取)

取締役社長 庵 栄伸
(北陸銀行 頭取)

皆さまには、日頃より当社およびグループ会社に格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

ここに、ほくほくフィナンシャルグループの「ミニディスクロージャー誌(平成25年3月期・営業のご報告)」をお届けいたします。

本誌は、平成24年度の業績や地域金融機関としての取り組みなどについてご紹介しております。ぜひご一読いただき、当社に対するご理解の一助としていただければ幸いです。

日本経済は安倍政権樹立以降、円安基調が続いており、輸出企業を中心に業績の回復が見込まれています。しかし、同時に低金利継続の観測が強まっており、金融機関にとっては厳しい収益環境がしばらく続く見通しです。

このような環境の下で、当社は25年度より中期経営計画“GO for IT!”をスタートさせております。当社グループは「地域から親しまれ、頼りにされる金融グループ」を目指しておりますが、この3年間は持続的な成長に向けた事業戦略の最適化に取り組む期間と位置付け、マーケット戦略の展開、経営資源の再配分や人材育成、公正堅実な企業文化の醸成に取り組んでいきます。

また、傘下の北陸銀行と北海道銀行の営業エリアでは、北陸新幹線と北海道新幹線の開業を控えております。当社グループでは、新幹線が新たにつなぐ地域を一つの経済圏と捉え、地域経済の発展に寄与すべく広域金融機関としての活動を強化していきます。

今後とも、変わらぬご支援とご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成25年6月

目次

- ごあいさつ ————— 01
- 中期経営計画 ————— 02
- 業績ハイライト ————— 03
- グループの概要 ————— 07
- 地域とのかかわり ————— 08
- 地域とともに(北陸銀行) ——— 09
- トピックス(北陸銀行) ————— 12
- 地域とともに(北海道銀行) ——— 13
- トピックス(北海道銀行) ————— 16
- 財務諸表 ————— 17
(ほくほくフィナンシャルグループ単体)
- 財務諸表 ————— 18
(ほくほくフィナンシャルグループ連結)
- 財務諸表(北陸銀行単体) ——— 19
- 財務諸表(北海道銀行単体) ——— 20
- 株式のご案内 ————— 21
- 経営理念等 ————— 22

■ 計画の概要

名称	中期経営計画 “GO for IT!”
期間	3年間(平成25年4月~28年3月)
位置付け	持続的な成長に向けた事業戦略の最適化に取り組む期間

目指すグループ像 地域から親しまれ、頼りにされる金融グループ

基本方針

1. 地域のお客さまとのリレーション強化と内部態勢の強化・再構築により、変化する環境のなかで持続的に成長するための態勢を構築する。
2. 「営業力の強化」「経営の効率化」の施策をさらに推し進めるとともに、「経営基盤の強化」に取り組む。
3. 地域の信頼を得て地域活性化に資することを通じて企業価値を高める。

現在、当社を取り巻く経営環境は、地域の人口、世帯数減少によるマーケットの縮小、低金利の継続、他行との競争激化に加え、原発問題や新興国の成長鈍化など不確実性も内包し、従来にも増して厳しい環境が続くと予想されます。

こうした中、これからの3年間で「持続的な成長に向けた事業戦略の最適化に取り組む期間」と位置付け、変化する環境のなかで持続的に成長するために、地域のお客さまとのリレーション強化と内部態勢の強化・再構築に取り組めます。経営施策では、従来から取り組んできた「営業力の強化」「経営の効率化」の施策をさらに推し進めるとともに、「経営基盤の強化」に取り組み、地域の信頼を得て地域活性化に資することを通じて企業価値を高めてまいります。

計 画 の 基本方針

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客取引基盤の強化 ■ コンサルティング営業の強化 ■ 広域グループの優位性発揮 ■ 個人取引マーケットの取組強化 ■ 有価証券運用の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 業務集約化・共同化の取組強化 ■ 共同利用システムのメリット追求 ■ 事務効率化、本部・営業店運営の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ■ パーゼル皿に対応した資本の質の向上 ■ 資産の質の向上 ■ 企業再生支援の取組強化 |
|---|---|---|

営業力の強化

経営の効率化

経営基盤の強化

施策の展開

内部態勢の強化・再構築

人財育成

経営資源の再配分

シナジー効果の加速

リスク管理態勢整備

コンプライアンス強化

■ 平成28年3月期目標とする計数(2行合算・連結)

総預金平残	10兆1,100億円	連結自己資本比率	10%以上
貸出金平残	7兆4,800億円	OHR(コア業務粗利益ベース)	67%
コア業務純益	470億円	不良債権比率	2%台
連結当期純利益	185億円		

営業の概況

■ ほくほくフィナンシャルグループ連結

(単位:億円)

	24年度		23年度
		前期比	
経常収益	1,991	△88	2,079
経常利益	293	△95	388
当期純利益	181	39	141
自己資本比率	11.88%	0.16%	11.72%

■ 北陸銀行・北海道銀行

(単位:億円)

	2行合算		
	24年度	前期比	23年度
経常収益	1,846	△83	1,930
コア業務粗利益	1,455	△108	1,563
経費(臨時処理分を除く)	951	△55	1,006
コア業務純益	503	△53	557
与信費用	170	66	104
有価証券等関係損益	4	18	△14
経常利益	300	△105	405
当期純利益	195	28	166

当社における当連結会計年度の業績につきましては、連結経常収益は前期比88億円減少の1,991億円、連結経常利益は前期比95億円減少の293億円、連結当期純利益は前期比39億円増加の181億円となりました。

連結自己資本比率は前期比0.16ポイント上昇し11.88%となりました。

平成24年度の期末配当につきましては、第1回第5種優先株式は所定の配当とし、1株当たり7円50銭、普通株式につきましては、中間配当を見送りとさせていただきますが、期末配当は昨年同様の1株当たり3円75銭とさせていただきます。

コア業務粗利益は、資金利益および金融派生商品収益の減少により、前期比108億円減少の1,455億円となりました。前年度はシステム更改がありましたが、今年度はそういった要因がなくなり経費が前期比55億円減少した結果、コア業務純益は、前期比53億円減少の503億円となりました。

経常利益は、与信費用が前期比66億円増加したことから、前期比105億円減少の300億円となりました。

当期純利益は、法人税等調整額の減少により前期比28億円増加の195億円となりました。

(単位:億円)

	北陸銀行		
	24年度	前期比	23年度
経常収益	1,030	△23	1,054
コア業務粗利益	823	△61	885
経費(臨時処理分を除く)	509	△33	542
コア業務純益	314	△28	343
与信費用	93	49	44
経常利益	183	△91	274
当期純利益	123	9	114
自己資本比率	11.78%	△0.07%	11.85%

(単位:億円)

	北海道銀行		
	24年度	前期比	23年度
経常収益	816	△59	875
コア業務粗利益	631	△46	678
経費(臨時処理分を除く)	442	△22	464
コア業務純益	189	△24	214
与信費用	76	16	59
経常利益	116	△14	131
当期純利益	72	19	52
自己資本比率	11.23%	0.43%	10.80%

損益の状況

■ コア業務粗利益<2行合算>



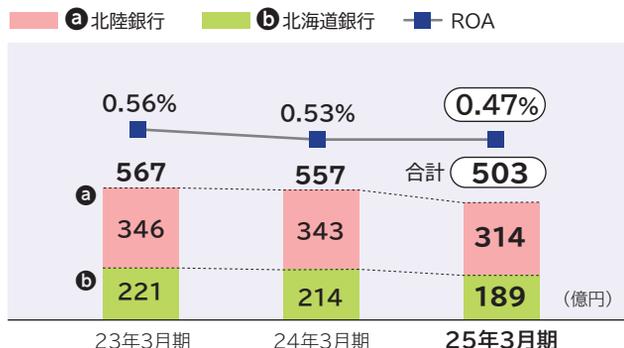
資金利益は貸出金利息や有価証券利息の減少により、前期比68億円減少の1,243億円となりました。

役員取引等利益は、投信販売手数料の減少やローン保険料等の増加により、前期比5億円減少の183億円となりました。

その他の利益は、金融派生商品収益の減少により、前期比34億円減少の27億円となりました。

これらの結果、コア業務粗利益は前期比108億円減少の1,455億円となりました。

■ コア業務純益<2行合算>



コア業務粗利益は前期比108億円減少しましたが、経費が前期比55億円減少したことから、コア業務純益は前期比53億円の減少にとどまり503億円となりました。

■ 当期純利益<2行合算>



与信費用の増加および株式等償却の増加により、経常利益は前期比105億円減少の300億円となりましたが、法人税等調整額の減少により、当期純利益は前期比28億円増加の195億円となりました。

預金・貸出金の状況

■ 預金 (含む譲渡性預金) <2行合算>

■ a 北陸銀行 ■ b 北海道銀行



預金は、個人、法人のお客さまともに増加したことにより、24年3月末比3,073億円増加の10兆81億円となりました。

■ 貸出金<2行合算>

■ a 北陸銀行 ■ b 北海道銀行



貸出金は、地方公共団体等向けや住宅系ローンの増加により、24年3月末比1,150億円増加の7兆4,020億円となりました。

■ 中小企業等貸出残高<2行合算>

■ a 北陸銀行 ■ b 北海道銀行



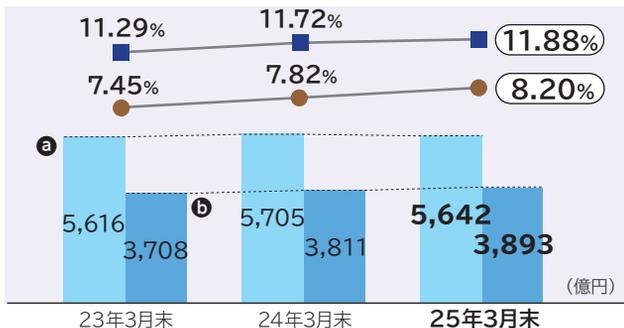
中小企業等貸出残高は、24年3月末比724億円減少の4兆6,925億円となりました。

円滑な地域金融への取り組みを重要な役割ととらえ、積極的に取り組んでおりますが、景気回復の足取りは重く、事業性資金ニーズの伸び悩みから貸出残高は減少いたしました。

健全性の指標

■ 自己資本比率<FG連結>

■ a 自己資本 ■ b Tier1 ■ 自己資本比率 ● Tier1比率



財務の健全性を示す自己資本比率は、リスクアセットの減少により、24年3月末比0.16ポイント上昇し11.88%となりました。

利益の積み上げにより内部留保が増加したことで、Tier1は24年3月末比81億円増加し、3,893億円となりました。自己資本は、劣後ローンの返済によりTier2が減少したため、24年3月末比62億円減少の5,642億円となりました。

■ 金融再生法開示債権<2行合算>

■ a 要管理債権 ■ b 危険債権
■ c 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ■ 開示債権比率



金融再生法開示債権は、24年3月末同水準の2,367億円となりましたが、開示債権比率は同0.06ポイント低下し、3.11%となりました。

■ 格付

日本格付研究所

JCR



格付投資情報センター

R&I



「格付」は、利害関係のない第三者機関である格付会社が企業の信用度や債務履行能力を簡潔な記号で表したものです。

当社、北陸銀行および北海道銀行は、JCRおよびR&Iより「A(シングルAフラット)」の格付を取得しており、信用力は高いとの評価を得ております。

銀行持株会社



名称 株式会社ほくほくフィナンシャルグループ
 本店所在地 富山市堤町通り1丁目2番26号
 業務の内容 1. 傘下子会社の経営管理
 2. 上記経営管理業務に付帯または関連する業務

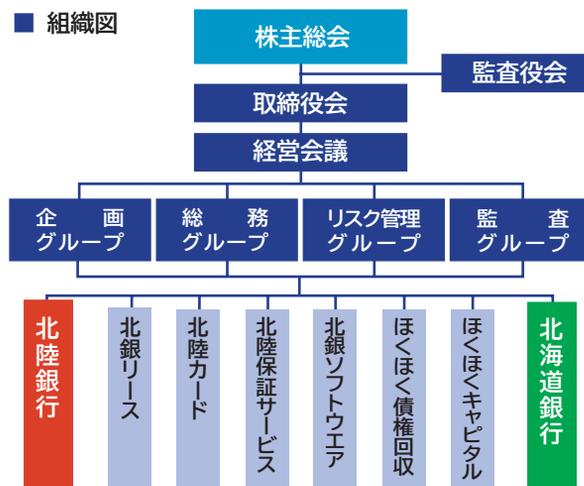
■ 資本金 708億9,500万円

■ 発行済株式 普通株式 1,351,630,146株
 第1回第5種優先株式 107,432,000株

■ 取締役・監査役の役職および氏名 (平成25年6月末現在)

役職名	氏名	役職名	氏名
取締役会長	堰八 義博	取締役	二階堂裕隆
取締役社長	庵 栄伸	取締役	大島 雄次
取締役	麦野 英順	常勤監査役	須河 孝一
取締役	笹原 晶博	監査役	林 則清
取締役	中野 隆	監査役	前泉 洋三
取締役	森田 勉	監査役	川田 達男

■ 組織図



■ グループ各社の内容

- (株)北陸銀行 ほくほくフィナンシャルグループの中核企業として、総合金融サービスの提供を行っております。
- (株)北海道銀行 総合金融サービスの提供を行っております。
- 北銀リース(株) リース業務、代金回収業務などを行っております。
- (株)北陸カード JCB・VISAのカード業務、北陸銀行のカードローン「スーパーNOW」等の信用保証業務などを行っております。
- 北陸保証サービス(株) 住宅ローンやマイカーローンなどの個人向けローンの信用保証業務、不動産担保調査受託などを行っております。
- 北銀ソフトウェア(株) コンピュータシステムの開発・保守・管理業務の受託および販売業務などを行っております。
- ほくほく債権回収(株) 銀行の個人向けローン管理業務受託、地域の企業再生支援およびグループ内の債権回収・整理業務などを行っております。
- ほくほくキャピタル(株) 株式公開の立案・アドバイス業務、社債引き受け業務、バンチャーキャピタル業務などを行っております。

■ 従業員の数 専任者13名、兼務者46名、計59名

■ 設立日 平成15年9月26日

■ 各組織の構成および役割等

- 取締役会 グループ全体の経営にかかる重要方針を決定し、持株会社ならびに子会社の経営管理・リスク管理・監査について管理監督します。
- 監査役会 監査の方針、監査役の職務の執行に関する事項を決定し、取締役の職務の執行を監査します。
- 経営会議 当社の常勤取締役で構成し、取締役会で決定した基本方針に基づき、全般的な業務執行方針および各部門の特に重要な業務執行に関する事項を決定します。

地域とのかかわり ≧ ほくほくフィナンシャルグループ

グループの広域ネットワーク (平成25年3月末現在)

ほくほくフィナンシャルグループは、北陸三県および北海道を主要営業基盤とする広域金融グループとして、三大都市圏を含む情報ネットワークと総合金融サービス機能を活用し、地域のお客さまの繁栄に貢献してまいります。

地域からお預かりしたご預金は、地域のお客さまにご融資し、地域経済発展に貢献しております。

海外



上海駐在員事務所
瀋陽駐在員事務所
大連駐在員事務所
シンガポール駐在員事務所
バンコク駐在員事務所
ニューヨーク駐在員事務所
ユジノサハリンスク駐在員事務所
ロンドン駐在員事務所

北陸3県 149カ店

富山県 91カ店
石川県 36カ店
福井県 22カ店

北海道 158カ店

3大都市圏 17カ店

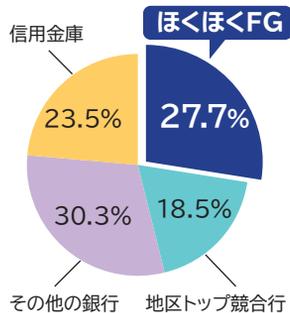
東京・横浜 10カ店
名古屋 3カ店
大阪・京都 4カ店

その他 4カ店

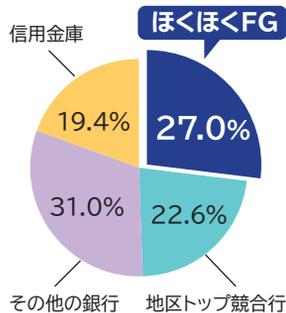
仙台・新潟・長野・高山

北陸3県内 預金・貸出金のシェア

預金のシェア

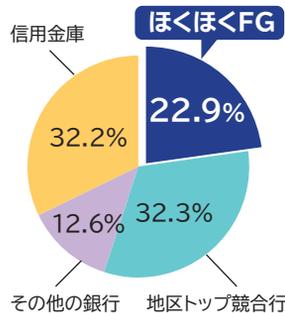


貸出金のシェア

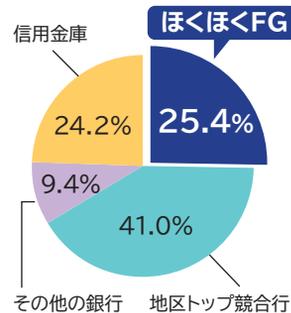


北海道内 預金・貸出金のシェア

預金のシェア



貸出金のシェア



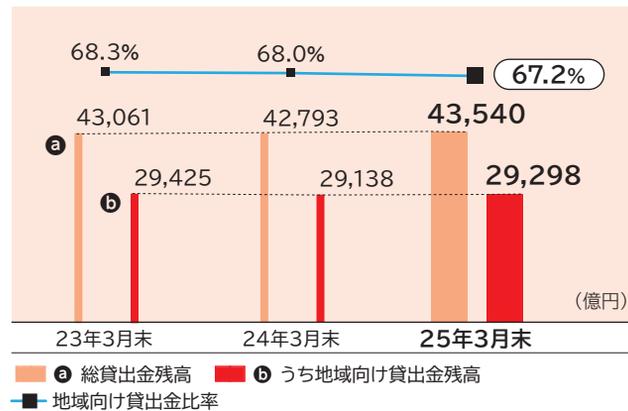
※シェアは、平成24年9月末現在 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」、信金中金 地域・中小企業研究所「信金中金月報」、ニッキン資料より当社にて作成。

※「地区トップ競合行」「その他の銀行」のシェアは推定値。ゆうちょ銀行は除く。

貸出金の状況

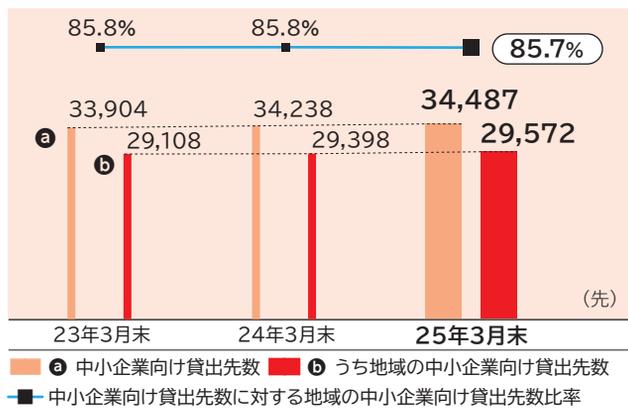
■ 地域向け貸出金の状況

総貸出金のうち、地域向け貸出金は2兆9,298億円となり、地域向け貸出金比率は67.2%となっております。



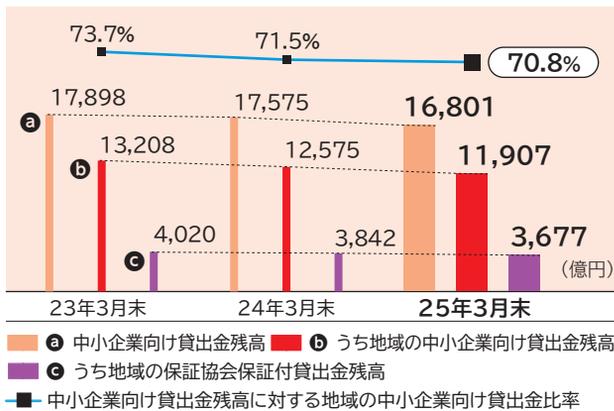
■ 中小企業向け貸出先数の状況

中小企業向け貸出先数は34,487先で、そのうち地域の中小企業向け貸出先数は29,572先と85.7%を占めております。

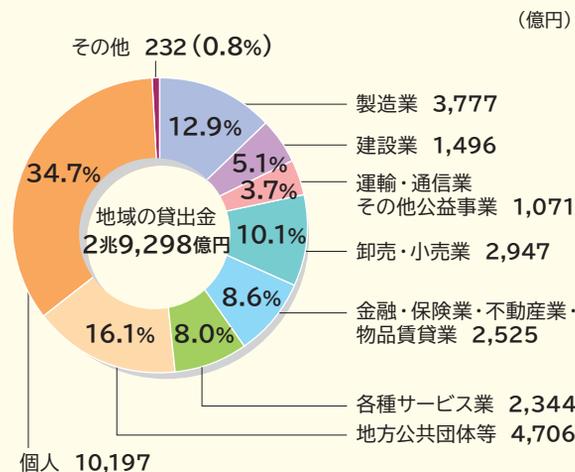


■ 中小企業向け貸出金の状況

中小企業向け貸出金は1兆6,801億円で、地域の中小企業向け貸出金は1兆1,907億円と中小企業向け貸出金の70.8%を占めております。



■ 地域の業種別貸出残高 (平成25年3月末)

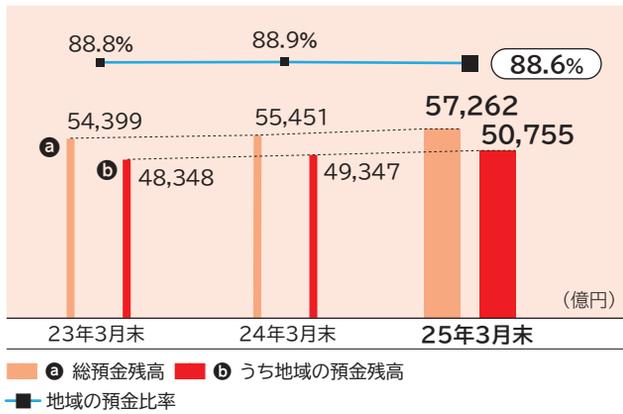


(注)「地域」とは、北陸銀行の主要営業基盤地域である北陸三県(富山、石川、福井)および北海道を指します。
計数は、流動化した住宅ローンを含めて記載しております。

預金等の状況

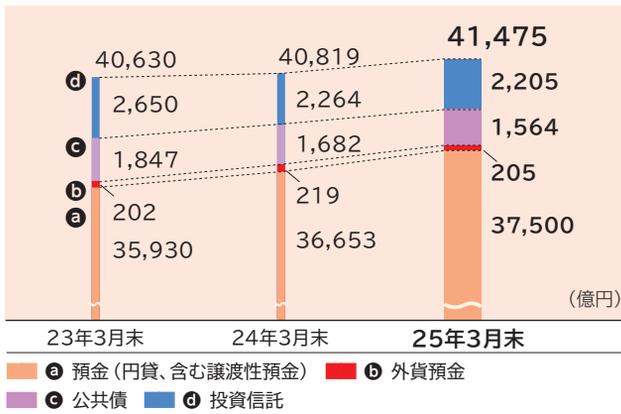
■ 地域の預金(含む譲渡性預金)の状況

総預金は5兆7,262億円、うち5兆755億円が地域の預金で、総預金の88.6%を占めております。



■ 個人預かり資産の状況

25年3月末の個人預かり資産残高は、4兆1,475億円、うち預金(円貨、含む譲渡性預金)を除いた投資型金融商品の残高は、3,974億円となりました。



■ 決済サービスのご利用状況

年金振込は29万3千先、給与振込は48万先、公共料金の自動口座振替は112万1千先と多くのお客さまに家計のメイン口座として北陸銀行をご利用いただいております。



マイホームの夢実現のお手伝い



北陸銀行では、お客さまのマイホームの夢の実現をお手伝いするために「夢ホームプレミアム」をはじめとして、皆さまのニーズに合わせ、幅広く住宅ローンを取り揃えています。

また、58カ所の「ほくぎんローンプラザ」では、専門スタッフがきめ細かいアドバイスを行い、お客さまに適した住宅ローンをお勧めしています。

住宅ローンをご利用のお客さまには、「ほくぎん夢ホーム倶楽部クラブオフ」の各種サービスがご利用いただけます。

地域密着金融の取り組み

北陸銀行は、地域密着型金融の本質である「地域とともに生きる」という高い志のもと、地域の皆さまのニーズにお応えし、皆さまとともに歩み、成長・発展することを目指します。



Hokuriku

1 経営支援に関する取り組み

● リレーション強化およびお取引先をより深く理解するための取り組み

- ・ほくぎんビジバ倶楽部、ほくりく長城会等を通じたお取引先への経営に関する実務的でタイムリーな情報の提供



「ほくぎんビジバ倶楽部経営セミナー」

24年度は「逆境におけるチャンスの見つけ方」、「経営資源の掘り起こしと企業戦略」の2つをテーマにセミナーを行い、計686名が参加されました。

- ・若手行員の目利き力向上のため、産業調査 트레이ナーを新設
- ・お取引先の業界特性をよく理解し、よりよい提案が行えるよう「業界の達人養成講座」を実施
- ・深度ある分析で優れた実態把握や提案の事例を表彰・紹介し、実務での目利き力・分析力の向上に活用



「業界の達人養成講座」

24年度は、介護事業、外食産業、物流業の“達人”に各業界について講義をしていただきました。延べ1,003名が受講し、業界のノウハウを深めました。

● 創業・新事業開拓等の支援

- ・大学との連携による技術力の事業化支援や産学連携ヒアリングシートを活用した事業の発掘・育成
- ・中小企業支援ネットワーク強化事業を活用した、専門家派遣やセミナー開催により、新事業開拓をサポート

中小企業支援ネットワーク強化事業での実績

24年度は、経営革新計画をはじめ県地域資源活用ファンドなど19件のお取引先の認定取得に貢献しました。

● 販路拡大・海外進出の支援

- ・広域店舗網や他行、行政との連携を活用し、各種情報の提供やビジネスマッチングの取り組みを強化
- ・海外行政機関や海外金融機関などと連携し、貿易保険取次ぎ、海外リスクマネジメント対応など海外進出をサポート



第三回「とやま『食』の商談会in東京」

富山県等と共催したこの商談会では、富山に本社を置く食品関連企業28社、首都圏のバイヤー22社が参加し、活発な商談が行われました。

● 経営改善・事業再生、事業承継の支援

- ・支店長、役員による経営改善SS運動や中小企業再生支援協議会等との積極的な連携を通じた質の高い事業再生支援を展開
- ・事業承継の専門知識を有する本部PBチーム、M&Aチームおよび営業店のPBデスクが中心となり、きめ細やかな訪問、提案活動による事業承継コンサルティングを実施

2 地域の活性化に関する取り組み

- ・大学への寄付講座、小中学生向け金融教育への講師派遣等、地域を担う若い世代への各種教育を通じた、長期的視野での地域活性化への貢献
- ・環境格付に基づく融資・私募債の取り扱いを通じた環境保全活動、アートギャラリーの設置による芸術・文化活動など地域貢献活動の実施



大学生の中国視察研修

国際社会で活躍できる人財育成を目的に、金沢大学と富山大学の学生それぞれ10名を4泊5日で上海へ派遣しました。

24年11月 シンガポール駐在員事務所 開設15周年記念式典を開催

11月21日、フォー・シーズンズ・ホテルにてシンガポール駐在員事務所開設15周年記念式典を開催しました。在シンガポール日本大使館安藤公使、シンガポール国際企業発展局チュア・タイク・ヒム副局長をはじめ、シンガポールに進出しているお取引先の現地駐在員、日本やマレーシアからの来賓など約100名のお客さまをお迎えし、盛大な式典となりました。

事務所開設15周年を契機に、チャイナプラスワンという進出ニーズの高いアセアン地域でのビジネス支援体制をさらに強化していく方針です。



25年1月 「タイ投資委員会(BOI)」と 経済交流の覚書を締結

タイへの投資誘致などを担当する政府機関タイ投資委員会(BOI)と北陸3県の地方銀行として初めて経済交流に関する覚書を締結しました。これにより、タイへ進出を検討するお取引先に対し、BOIを通じ現地の正確な情報提供やBOI側への紹介も可能になりました。

すでにタイの大手商業銀行のカシコン銀行と業務協力協定を結んでおりますが、中国について進出企業が多いタイにおいて、投資・金融両面でお取引先のビジネスをサポートしていくことが可能になりました。

25年3月 「とやまこどもプラザ」に児童本 10,000冊を寄贈

北陸銀行をはじめほくほくフィナンシャルグループ4社が、JR富山駅前のC i Cビルにオープンした「とやまこどもプラザ」内のこども図書館に、子供向けの本10,000冊を寄贈しました。「とやまこどもプラザ」は、こども図書館と



子育て支援施設が一体となったまちなか子育て施設です。こども図書館の蔵書の充実役に立ち、多くの親子の利用につながればと思います。寄贈しました。

25年3月 ギャラリー・ミレーへの来館者 1万人を突破

平成24年9月1日、中心市街地の賑わい創出を狙い富山市中央通りに開館した「ギャラリー・ミレー」は、19世紀に活躍したフランス・バルビゾン派の画家・ミレーの代表作である「羊の毛を刈る女」や「洗濯する女」など53点を収蔵しています。

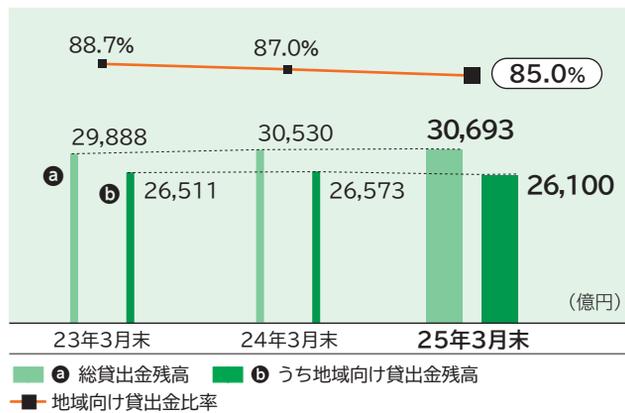
バルビゾン派の画家の作品を、美術ファンだけでなく買い物客、観光客、そして出張中のビジネスマンなど全国から多くの方が鑑賞に来場され、3月28日には開館7ヶ月で来館者1万人の大台を超えました。今後も、皆さまに愛される美術館として特色ある企画展を開催していきます。



貸出金の状況

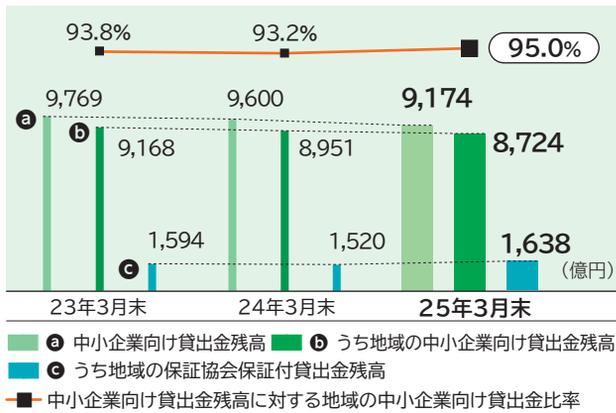
■ 地域向け貸出金の状況

地域向け貸出金は、2兆6,100億円となりました。総貸出金のうち地域向け比率は85%となっております。



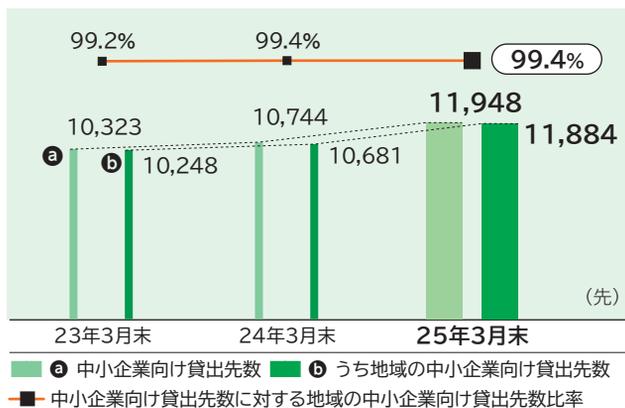
■ 中小企業向け貸出金の状況

中小企業向け貸出金は9,174億円で、地域の中小企業向け貸出金は8,724億円と95%を占めております。

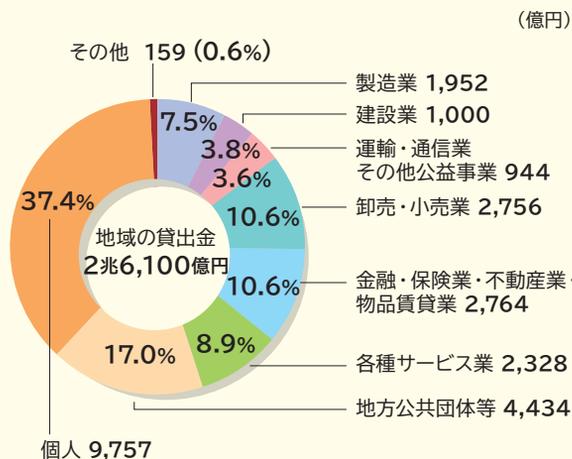


■ 中小企業向け貸出先数の状況

中小企業向け貸出先数は11,948先で、そのうち地域の中小企業向けは11,884先と99.4%を占めております。



■ 地域の業種別貸出残高 (平成25年3月末)

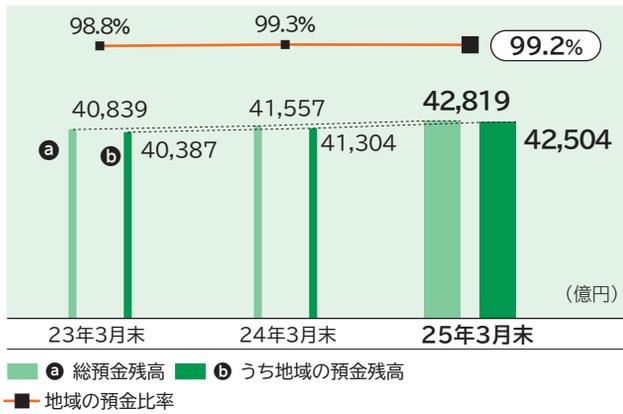


(注)「地域」とは、北海道銀行の主要営業基盤地域である北海道を指します。

預金等の状況

■ 地域の預金（含む譲渡性預金）の状況

総預金は4兆2,819億円となりました。うち4兆2,504億円が地域の預金で、総預金の99.2%を占めております。



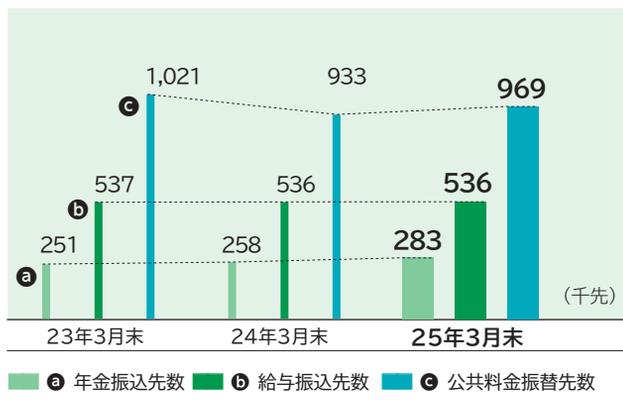
■ 個人預かり資産の状況

25年3月末の個人預かり資産残高は、3兆3,788億円、うち預金(円貨、含む譲渡性預金)を除いた投資型金融商品の残高は、2,455億円となりました。



■ 決済サービスのご利用状況

年金振込は28万3千先、給与振込は53万6千先、公共料金の自動振替は96万9千先と多くのお客さまに家計のメイン口座としてご利用いただいております。



● 「道銀キャッシュ・クレジットカードKitaca」取扱増加!



平成24年3月12日より「Kitaca」の取り扱いを開始して約1年が経過しました。

キャッシュカード機能の付いたクレジットカードにIC乗車券および電子マネーサービスとしての役割を付加することで、JRへのご乗車や主要コンビニエンスストア等のKitaca電子マネー加盟店

での買い物にご利用できる便利で大変好評なカードです。

6月22日からは、SAPICAエリアでも使用できるようになるため、ご利用エリアの拡大に伴いお申込みも急増しています。

地域密着金融の取り組み

北海道銀行は、北海道の強みを伸ばし弱みを克服することにより地域経済のさらなる活性化を図るため、ものづくり企業や農業事業者の支援に積極的に取り組んでおります。



Hokkaido

1 経営支援に関する取り組み

● リレーション強化およびお取引先をより深く理解するための取り組み

- 道銀経営塾、道銀農業経営塾、ほっかいどう長城会、道銀アグリパートナーズ等を通じたお取引先との関係強化、タイムリーな情報提供



「道銀経営塾」

平成8年より、後継者育成の目的で開講した当塾の卒業生は386名となりました。24年度からは卒業生の会「共栄会」を発足させ、継続的な支援を行ってまいります。

- 実態把握力や融資判断力を強化し、渉外力や目利きセンスを向上させることにより、企業の成長可能性を重視した資金供給を可能とするための階層別融資研修会を実施

● 創業・新事業開拓等の支援

- 農業、医療・福祉、観光等の成長分野への取組強化
- 「道銀農業経営塾(異業種参入編)」の開催



「道銀農業経営塾(異業種参入編)」

北海道農業を担う農業生産法人の経営者および後継者を対象とした「農業経営塾」とは別に、24年度は農業との連携によるビジネス展開を図る企業に対する「道銀農業経営塾 異業種参入編」を開催。9社12名のご参加をいただきました。

● 販路拡大・海外進出の支援

- テーマを絞り込んだ各種商談会、個別相談会の実施による商流の川上から川下までをサポートするビジネスマッチングを実施
- お取引先のニーズに合った各種セミナー、国内外ネットワークを活用した情報提供
- アジア、ロシア極東地区等への進出や販路拡大支援充実



タイ・カシコン銀行との人材交流覚書調印と「北海道ビジネスセミナー」開催

25年2月、業務提携先であるタイ・カシコン銀行と人材交流の覚書に調印しました。また、同日タイ現地で「北海道ビジネスセミナー」を開催し、壇八頭取が観光資源や農産品、食品など北海道の魅力とビジネスの可能性を紹介しました。



「ジェットロRIT事業ロシア極東寒冷地住宅ビジネス交流会」

寒冷地住宅建設の技術交流や産業交流を目的に、ジェットロ(日本貿易振興機構)と共催で、25年2月に道内企業6社と共にサハリンにて交流会を開催し、日本企業側のプレゼンやロシア企業との活発な意見交換が行われました。

● 経営改善・事業再生、事業承継の支援

- 中小企業再生支援協議会や外部機関・専門家との連携強化
- PDCA活動により経営指導やモニタリングの質を高め、より深化した企業支援活動を実施

2 地域の活性化に関する取り組み

- 行政機関、地方公共団体、経済団体、道外企業、産業技術支援機関、大学・高等専門学校等教育研究機関とのネットワークを強化し、地域産業育成支援、地域おこし支援を実施
- 地域振興、スポーツ振興、金融教育、環境保全等の地域貢献活動の実施



「東北・北海道地区交流促進地銀連携」の基本合意

平成27年度の北海道新幹線開業を控え、東北・北海道地区を一つの経済圏として捉え、両地区の相互交流を多方面から積極的にサポートし、地域経済の発展に努めてまいります。

25年3月 道銀Web専用口座「スマートLeaf」、 若者応援サービス「Do DEBUT」 取扱開始

3月1日より道銀Web専用口座「スマートLeaf」および若者応援サービス「Do DEBUT」の取り扱いを開始しました。「スマートLeaf」は通帳を発行しないインターネット専用の普通預金口座です。現金の入出金はキャッシュカード

で、残高照会や取引明細照会
は道銀ダイレクトサービスで
行います。

「Do DEBUT」は満18～
23歳までの方が対象となり、
北海道銀行のATM時間外手
数料が0円でご利用いただけ
ます。



25年4月 桑園支店の新規出店

4月15日、JR桑園駅前
に桑園支店をオープンしました。

桑園支店は、「コンサルティング
ルーム」や「相談ブース」を
設置し、資産運用や住宅
ローンの専門担当者を配置
するなど、充実した体制で
個人のお客さまのご相談
にお応えいたします。

また、通帳繰越機能を備
えた新型ATMの導入や全135
マスの全自動貸金庫の設置
など、お客さまにより便利
にご利用いただける店舗と
してあります。



25年4月 「どうぎん保険プラザ大通」での 保険コンサルティングを開始

4月12日、本店ビル6階に道内銀行で初となる保険専門プラザ「どうぎん保険プラザ大通」をオープンしました。



生命保険を切り口に、お客さまのライフステージに応じたニーズに幅広くお応えいたします。

営業時間は10時～18時(ゴールデンウィークの一部、年末年始の一部を除く)、原則予約制となっております。

25年4月 ロシア連邦アムール州政府と 農業分野に関する覚書を締結

北海道銀行とロシア連邦アムール州政府は、農業分野での協力促進を目的に覚書を締結しました。北海道とアムール州双方の基幹産業である農業および農業関連産業の発展に向け、寒冷地農業の研究や技術普及および農業関係者の交流などを支援してまいります。

調印式は、4月29日モスクワ市内にて安倍首相とプーチン大統領立ち会いのもと行われました。翌日の日露フォーラムでは、堰八頭取が農業を通じたビジネスモデルの構築と農業の観点から経済交流の可能性を提案いたしました。



また、ロシアアグリビジネスの支援体制強化に向け、平成25年度中にウラジオストク市に駐在員事務所の設立を計画しております。

貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	8,972	流動負債	163
現金及び預金	7,396	預り金	4
前払費用	2	未払費用	61
未収収益	52	未払配当金	78
未収還付法人税等	1,515	未払法人税等	11
その他	4	その他	6
固定資産	245,958	固定負債	18,191
有形固定資産	1	社債	18,000
器具及び備品	1	役員退職慰労引当金	191
無形固定資産	0	負債の部合計	18,355
商標権	0	純資産の部	
ソフトウェア	0	資本金	70,895
投資その他の資産	245,956	資本剰余金	137,096
関係会社株式	227,870	資本準備金	82,034
関係会社長期貸付金	18,000	その他資本剰余金	55,061
その他	86	利益剰余金	29,988
		その他利益剰余金	29,988
		繰越利益剰余金	29,988
		自己株式	△1,512
		株主資本合計	236,467
		新株予約権	107
		純資産の部合計	236,575
資産の部合計	254,930	負債及び純資産の部合計	254,930

損益計算書 (平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(単位:百万円)

営業収益	8,154
関係会社受取配当金	7,585
関係会社受入手数料	569
営業費用	506
販売費及び一般管理費	506
営業利益	7,647
営業外収益	258
関係会社貸付金利息	246
その他の営業外収益	11
営業外費用	320
社債利息	247
事務委託費	73
経常利益	7,585
税引前当期純利益	7,585
法人税、住民税及び事業税	3
法人税等合計	3
当期純利益	7,581

株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	70,895	82,034	60,052	142,087	29,228	29,228	△570	241,640	-	241,640
当期変動額										
剰余金の配当	-	-	-	-	△6,822	△6,822	-	△6,822	-	△6,822
当期純利益	-	-	-	-	7,581	7,581	-	7,581	-	7,581
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	△5,932	△5,932	-	△5,932
自己株式の処分	-	-	△0	△0	-	-	0	0	-	0
自己株式の消却	-	-	△4,990	△4,990	-	-	4,990	-	-	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	107	107
当期変動額合計	-	-	△4,990	△4,990	759	759	△941	△5,172	107	△5,065
当期末残高	70,895	82,034	55,061	137,096	29,988	29,988	△1,512	236,467	107	236,575

連結貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位:百万円)

連結損益計算書 (平成24年4月1日~
平成25年3月31日)

(単位:百万円)

資産の部	負債の部
現金預け金 553,744	預金 9,818,196
コールローン及び買入手形 135,426	譲渡性預金 164,667
買入金銭債権 86,864	コールマネー及び売渡手形 40,345
特定取引資産 7,228	特定取引負債 2,052
金銭の信託 4,000	借入金 252,551
有価証券 2,509,794	外国為替 123
貸出金 7,387,934	社債 33,000
外国為替 10,616	その他負債 84,703
その他資産 109,182	退職給付引当金 9,829
有形固定資産 106,211	役員退職慰労引当金 684
建物 34,449	偶発損失引当金 3,033
土地 64,443	睡眠預金払戻損失引当金 1,256
リース資産 756	再評価に係る繰延税金負債 7,506
建設仮勘定 45	支払承諾 79,728
その他の有形固定資産 6,515	負債の部合計 10,497,680
無形固定資産 38,098	純資産の部
ソフトウェア 12,877	資本金 70,895
のれん 24,000	資本剰余金 148,197
リース資産 462	利益剰余金 201,138
その他の無形固定資産 758	自己株式 △1,547
繰延税金資産 24,141	株主資本合計 418,684
支払承諾見返 79,728	その他有価証券評価差額金 52,630
貸倒引当金 △73,742	繰延ヘッジ損益 △301
	土地再評価差額金 9,340
	その他の包括利益累計額合計 61,669
	新株予約権 107
	少数株主持分 1,089
	純資産の部合計 481,550
資産の部合計 10,979,231	負債及び純資産の部合計 10,979,231

経常収益 199,136
資金運用収益 134,872
うち貸出金利息 (112,155)
うち有価証券利息配当金 (21,058)
役員取引等収益 37,396
特定取引収益 325
その他業務収益 23,503
その他経常収益 3,038
経常費用 169,804
資金調達費用 10,870
うち預金利息 (7,363)
役員取引等費用 13,876
その他業務費用 9,543
営業経費 106,185
その他経常費用 29,329
経常利益 29,332
特別損失 570
税金等調整前当期純利益 28,761
法人税、住民税及び事業税 4,119
法人税等調整額 6,467
法人税等合計 10,587
少数株主損益調整前当期純利益 18,174
少数株主利益 69
当期純利益 18,105

連結株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	70,895	153,188	189,845	△605	413,322	26,898	△15	9,351	36,234	-	1,003	450,561
当期変動額												
剰余金の配当	-	-	△6,822	-	△6,822	-	-	-	-	-	-	△6,822
当期純利益	-	-	18,105	-	18,105	-	-	-	-	-	-	18,105
自己株式の取得	-	-	-	△5,932	△5,932	-	-	-	-	-	-	△5,932
自己株式の処分	-	△0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0
自己株式の消却	-	△4,990	-	4,990	-	-	-	-	-	-	-	-
土地再評価差額金の取崩	-	-	10	-	10	-	-	-	-	-	-	10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	25,731	△286	△10	25,434	107	85	25,627
当期変動額合計	-	△4,990	11,293	△941	5,361	25,731	△286	△10	25,434	107	85	30,988
当期末残高	70,895	148,197	201,138	△1,547	418,684	52,630	△301	9,340	61,669	107	1,089	481,550

貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
現金預け金	394,219	預金	5,585,481
コールローン	45,426	譲渡性預金	140,767
買入金銭債権	86,860	コールマネー	38,464
特定取引資産	4,499	特定取引負債	2,052
有価証券	1,269,622	借入金	165,061
貸出金	4,332,774	外国為替	62
外国為替	5,594	その他負債	26,102
その他資産	31,571	退職給付引当金	113
有形固定資産	81,257	役員退職慰労引当金	294
無形固定資産	7,345	偶発損失引当金	2,169
繰延税金資産	11,485	睡眠預金払戻損失引当金	848
支払承諾見返	38,481	再評価に係る繰延税金負債	7,506
貸倒引当金	△33,093	支払承諾	38,481
		負債の部合計	6,007,408
		純資産の部	
		資本金	140,409
		資本剰余金	14,998
		資本準備金	14,998
		利益剰余金	64,632
		利益準備金	8,056
		その他利益剰余金	56,575
		繰越利益剰余金	56,575
		株主資本合計	220,040
		その他有価証券評価差額金	39,557
		繰延ヘッジ損益	△301
		土地再評価差額金	9,340
		評価・換算差額等合計	48,596
		純資産の部合計	268,637
資産の部合計	6,276,045	負債及び純資産の部合計	6,276,045

損益計算書 (平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(単位:百万円)

経常収益	103,086
資金運用収益	76,217
(うち貸出金利息)	(61,597)
(うち有価証券利息配当金)	(13,318)
役員取引等収益	17,712
特定取引収益	152
その他業務収益	7,452
その他経常収益	1,551
経常費用	84,713
資金調達費用	6,224
(うち預金利息)	(4,108)
役員取引等費用	7,089
その他業務費用	407
営業経費	54,143
その他経常費用	16,849
経常利益	18,373
特別損失	442
税引前当期純利益	17,930
法人税、住民税及び事業税	270
法人税等調整額	5,344
法人税等合計	5,615
当期純利益	12,315

株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						評価・換算差額等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金		評価・換算差額等合計
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計						
当期首残高	140,409	14,998	14,998	6,862	51,414	58,277	213,685	20,997	△15	9,351	30,333	244,019
当期変動額												
剰余金の配当	-	-	-	1,194	△7,165	△5,970	△5,970	-	-	-	-	△5,970
当期純利益	-	-	-	-	12,315	12,315	12,315	-	-	-	-	12,315
土地再評価差額金の取崩	-	-	-	-	10	10	10	-	-	-	-	10
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	18,560	△286	△10	18,262	18,262
当期変動額合計	-	-	-	1,194	5,160	6,355	6,355	18,560	△286	△10	18,262	24,617
当期末残高	140,409	14,998	14,998	8,056	56,575	64,632	220,040	39,557	△301	9,340	48,596	268,637

貸借対照表 (平成25年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
現金預け金	158,344	預金	4,250,622
コールローン	90,000	譲渡性預金	31,300
商品有価証券	2,728	コールマネー	1,881
金銭の信託	4,000	借入金	104,180
有価証券	1,228,276	外国為替	61
貸出金	3,069,307	社債	15,000
外国為替	5,021	その他負債	32,414
その他資産	40,519	退職給付引当金	9,317
有形固定資産	29,900	役員退職慰労引当金	176
無形固定資産	6,497	偶発損失引当金	864
繰延税金資産	13,836	睡眠預金払戻損失引当金	408
支払承諾見返	26,533	支払承諾	26,533
貸倒引当金	△27,531	負債の部合計	4,472,758
		純資産の部	
		資本金	93,524
		資本剰余金	16,795
		資本準備金	16,795
		利益剰余金	47,000
		利益準備金	5,883
		その他利益剰余金	41,117
		繰越利益剰余金	41,117
		株主資本合計	157,320
		その他有価証券評価差額金	17,356
		評価・換算差額等合計	17,356
		純資産の部合計	174,676
資産の部合計	4,647,435	負債及び純資産の部合計	4,647,435

損益計算書

(平成24年4月1日～
平成25年3月31日)

(単位:百万円)

経常収益	81,609
資金運用収益	59,008
(うち貸出金利息)	(50,504)
(うち有価証券利息配当金)	(8,146)
役員取引等収益	15,768
その他業務収益	5,176
その他経常収益	1,657
経常費用	69,975
資金調達費用	4,625
(うち預金利息)	(3,259)
役員取引等費用	8,045
その他業務費用	538
営業経費	46,022
その他経常費用	10,743
経常利益	11,634
特別利益	2
特別損失	160
税引前当期純利益	11,476
法人税、住民税及び事業税	3,215
法人税等調整額	989
法人税等合計	4,205
当期純利益	7,270

株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金					利益剰余金 合計
当期首残高	93,524	16,795	16,795	5,561	35,780	41,341	151,660	10,427	10,427	162,088
当期変動額										
剰余金の配当	-	-	-	322	△1,933	△1,611	△1,611	-	-	△1,611
当期純利益	-	-	-	-	7,270	7,270	7,270	-	-	7,270
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	6,928	6,928	6,928
当期変動額合計	-	-	-	322	5,337	5,659	5,659	6,928	6,928	12,588
当期末残高	93,524	16,795	16,795	5,883	41,117	47,000	157,320	17,356	17,356	174,676

株式会社のご案内

決算期	毎年3月31日	
定時株主総会の基準日	毎年3月31日	
定時株主総会	毎年6月	
剰余金の配当の基準日	3月31日および中間配当金の支払いを行うときは9月30日	
1単元の株式数	1,000株	
証券コード	8377	
上場証券取引所(普通株式)	東京証券取引所(第一部)および札幌証券取引所	
公告方法	電子公告により当社ホームページに掲載いたします。(http://www.hokuhoku-fg.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	
株式事務取扱場所	株主名簿管理人・特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
	お問い合わせ先・郵便物の送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
		<small>みずほ</small> フリーダイヤル 0120-288-324 受付時間：平日9時～17時(土・日・祝祭日を除く)

■ 株式に関する諸手続きについて

① 普通株式をご所有の株主さま

住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定、買取・買増請求等	<ul style="list-style-type: none"> 証券会社の口座に記録されている株式・・・口座を開設されている証券会社が窓口になります。 特別口座に記録されている株式・・・みずほ信託銀行 および みずほ証券 の本支店が窓口になります。
未払配当金のお支払、支払明細発行	みずほ信託銀行 および みずほ銀行 の本支店が窓口になります。 みずほ証券 の本支店でもお取次ぎしております。

② 優先株式をご所有の株主さま

各種ご請求・お手続き	みずほ信託銀行 および みずほ証券 の本支店が窓口になります。
------------	---------------------------------

配当金のお受け取りについて

◎配当金の口座振込等(銀行振込や登録配当金受領口座方式、株式数比例配分方式)を指定されていない方は、同封の「配当金領収証」により、払渡しの期間内にお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

◎配当金のお受け取り忘れはございませんか？

- 当社の定款により、支払期間から満5年を経過すると配当金のお受け取りができなくなります。
- 過去の配当金について未だお受け取りいただいていない配当金がありましたら、上記のみずほ信託銀行(フリーダイヤル)へお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。
- 配当金を確実にお受け取りいただくために、口座振込等でお受け取りをお勧めいたします。

経営理念

「ほくほくフィナンシャルグループ」は、広域地域金融グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます。

地域共栄 社会的使命を実践し、地域社会とお客さまとともに発展します。

公正堅実 公正かつ堅実な経営による健全な企業活動を目指し、信頼に応えます。

進取創造 創造と革新を追求し、活力ある職場から魅力あるサービスを提供します。

ホームページのご案内

ほくほくフィナンシャルグループ

ほくほくフィナンシャルグループの概要、経営戦略、財務データ、IR情報など最新の情報から過去のデータまでご覧いただけます。

<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>



北陸銀行

取扱商品・サービスやキャンペーンのお知らせから店舗やATM(コンビニATMを含む)の所在地・ご利用時間まで、さまざまな情報を詳細かつタイムリーに掲載しております。

<http://www.hokugin.co.jp/>



北海道銀行

各種商品・サービス、セミナーのご案内、トピックスなどをタイムリーに掲載しております。また、定期預金、各種ローンの簡単なシミュレーションもご利用いただけます。

<http://www.hokkaidobank.co.jp/>



コーポレートマーク

垂直に伸びるゴールドのグラデーションは企業の成長性と収益性を表し、緩やかな弧を描くラインは広域地銀としてのネットワークを表現しています。また、落ち着いたあるブルーの正方形は、組織の揺るぎない安定性をイメージしており、その正方形の中に垂直のラインとカーブのラインを配置することによって、「ほくほく」の頭文字である「h」を表しています。



金融ADR制度への取り組み

当社グループの北陸銀行、北海道銀行では、お客さまからのご意見・苦情等につきまして、迅速かつ適切な対応を行うべく、指定紛争解決機関である全国銀行協会と契約を締結しております。

指定紛争解決機関は、中立・公正な立場で、解決のための取り組みを行います。

北陸銀行・北海道銀行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人全国銀行協会

連絡先：全国銀行協会相談室

電話番号：0570-017109 または 03-5252-3772

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

〒930-8637

富山市堤町通り 1丁目2番26号

Tel: 076-423-7331

<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

株式会社 北陸銀行

総合企画部広報グループ

〒930-8637

富山市堤町通り 1丁目2番26号

Tel: 076-423-7111

<http://www.hokugin.co.jp/>

株式会社 北海道銀行

経営企画部広報CSR室

〒060-8676

札幌市中央区大通西4丁目1番地

Tel: 011-233-1005

<http://www.hokkaidobank.co.jp/>